「“水の都とやま” 推進協議会」設立総会

—次第—

第１部　総会議事　　14:00 ～ 15:20

1. 開会　　司会／尾山謙二郎
2. 設立総会に至るまでの経過報告　　中村孝一
3. 設立趣意書・規約の承認
4. 役員選任
5. 会長あいさつ
6. 今後の活動について　理事長
7. 閉会

第２部　記念講演　　15:30 ～ 16:00

「サンアントニオに学ぶ松川の魅力づくり」

埴生雅章（元富山県土木部長、元（公財）富山県民福祉公園副理事長
現在、アートハウスおやべアートプロデューサー）

※ 終了後、お時間のある方は松川茶屋前にお集まりください。16:15 発の便にて、自然あふれる松川の緑の中を船上から視察します（乗船時間 30 分・雨天中止）。

●日時　　平成 29 (2017) 年 5 月 17 日 (水) 14:00 ～

●場所　　富山第一ホテル２Ｆ春日の間

“水の都とやま” 推進協議会事務局

http://mizuno-miyako-toyama.org

「“水の都とやま”推進協議会」設立趣意書

私たちの街は、神通川（現在の松川）を外堀に富山城が築かれ、城下町として発展してきました。松川は富山市の中心部を抱きかかえるように流れ、“水の都とやま”のシンボルとなっています。

1985年、同じように美しい川が街中を流れている縁で、全米ナンバーワンのモデル都市・サンアントニオ市から、シスター・シティの申込みがありました。しかし、ダイヤモンドに例えるとピカピカに磨かれているサンアントニオに比べ、松川は原石のままです。

金沢の人からは、「松川はまるで兼六園の真ん中を流れる曲水のよう」と羨ましがられているのに、多くの市民は花見シーズン以外、その価値にあまり気づいていないようです。

「友だちが遊びにきても連れて行く所がない！」との市民の悲痛な叫びから、1987年、中心部に観光名所をつくり、賑わいを取り戻そうと、松川に遊覧船がスタートしましたが、まだまだ整備水準・管理水準が低いため、人々が賑わい集う川になっていません。

金沢にはキラーコンテンツがあるが、富山には“顔”になるものがない、と言われます。それなら、松川を“水の都とやま”の顔となるよう、魅力ある場所に作り替えることです。

城址公園の松川側には「親水の庭」があって、滝が流れていたり、日本庭園のように美しいデザインになっています。また、「松川茶屋」も富山城と一体になって、歴史を感じさせるとともに、遊覧船に乗っている人も階段式の“カフェテラス”で憩う人たちと手を振り合ったり、街の真ん中のリゾート地にいるように心を和ませてくれます。

このようなロマンチックな場所を、上流側、下流側へと伸ばし、護岸の環境整備を進めれば、中心部の魅力がアップして、沢山の人々が集まってきて賑わう場所になるでしょう。

観光客にとっては、訪れてみたくなる魅力的な“水の都とやま”、市民にとっては、自然あふれる、“うるおいとやすらぎ”を与えてくれる快適で美しい環境、その中でウォーキングできることで、健康増進がはかれ、健康寿命も延び、医療費も抑えることができる、との一石二鳥の効果があります。

松川のように都市のど真ん中を美しい川が流れている所は、他にありません。富山市にとって、松川は大切な宝です。松川の環境整備が進み、さらに美しさと賑わいが増してこれば、市民も他都市にはない魅力を持った“水の都とやま”に誇りを持つに違いありません。

そのためには、松川と街づくりを一体化したマスタープランをつくり、皆で話し合っていくことが大切です。市民が計画段階から積極的に参加できるように、ここに「“水の都とやま”推進協議会」の設立を発起する次第です。皆さんとともに、富山市にとって100年に1回あるかないかといわれるこの大プロジェクトに挑戦できることを、心から楽しみにしています。

2017年2月1日

「“水の都とやま”推進協議会」規約

（名称）
第１条　本会は、「“水の都とやま”推進協議会」と称する。

（目的）
第２条　本会は、神通川によって生まれ、神通川と共に育ってきた富山の歴史と文化を尊重し、その名残である松川、いたち川、富岩運河を一体化した環境整備を進めるとともに、富山城の西のお堀を復元し、“水の都とやま”の“顔”となる「夢の神通回廊」を創造することによって、市民の誇りを取り戻し、富山市の発展に貢献することを目的とする。

（会員）
第３条　本会の会員は、本会の趣旨に賛同し、理事会の承認を得たものをもって構成する。会員は法人会員、個人会員、及び賛助会員とする。
（役員）
第４条　本会に次の役員を総会において選任する。任期は２年で、再任は妨げない。

会長	１名
副会長	若干名
理事長	１名
副理事長	若干名
理事	若干名
監事	２名

（役員の職務）
第５条　①会長は本会を代表し、会務を総理する。
②副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、職務を代理する。
③役員は、理事会を構成し、会務を執行する。

（顧問、相談役、参与、参事）
第６条　①本会に顧問、相談役、参与、参事を置くことができる。
②顧問、相談役、参与、参事は会長が委嘱し、理事会の承認を得るものとする。
（総会）
第７条　本会は、毎年１回定時総会を開く。その他必要に応じ、臨時総会を開催できる。

（会計）
第８条　本会の会計は、寄付金、その他の収入をもってあてる。
年会費　無料
第９条　本会の会計年度は毎年４月１日に始まり、翌年３月末までとする。

（事務局）
第 10 条　本会は、事務局を「月刊グッドラックとやま」編集部に置く。

（その他）
第 11 条　この規約に定めるもののほか、本会の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

附則
１. この会の設立は 2017 年２月１日で、この規約はこの日から適用する。

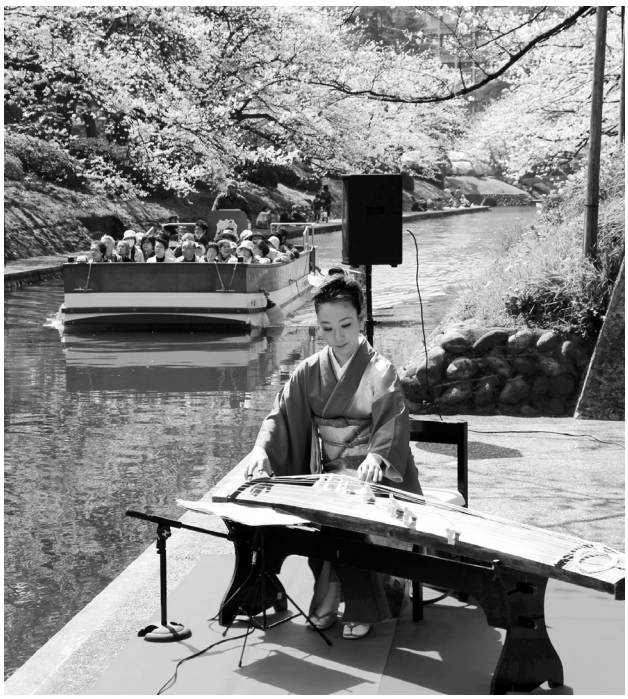
“水の都とやま” 推進協議会名簿

2017.5.17 現在　五十音順

名前	役職等	備考
浅岡節夫	2003「川と街づくり国際フォーラム」実行委員会 委員長 富山県オペラ協会 名誉会長	会長
川田文人	一般財団法人 北陸経済研究所理事長	副会長
西頭徳三	新・富山大学初代学長、現・常葉大学学長	副会長
田畑裕明	衆議院議員	副会長
中村孝一	松川を美しくする会 会長、月刊グッドラックとやま 発行人 「川と街づくり国際フォーラム」事務局長	理事長
澤田悦守	北陸中央食品㈱ 代表取締役社長	副理事長
髙見隆夫	富山市議会議員・前富山市議会議長	副理事長
池田武邦	建築家・日本設計名誉会長 富山市庁舎の設計を統括	顧問
久保田 勝	元・国交省富山河川国道事務所 所長 2003「川と街づくり国際フォーラム」提案者	顧問
白井芳樹	元・富山県土木部長 2003「川と街づくり国際フォーラム」パネラー	顧問
埴生雅章	元富山県土木部長、元 (公財) 富山県民福祉公園副理事長 アートハウスおやべアートプロデューサー	顧問
渡邊明次	関東学院大学名誉教授 2003「川と街づくり国際フォーラム」コーディネーター	顧問
五十嵐 務	富山県議会議員	
池田安隆	㈱池田屋安兵衛商店 代表取締役社長	監事
石井 稔	石井瓦店 代表	
稲垣 仁	富山第一ホテル 総支配人	監事
今井清隆	元富山県河川課長・元立山カルデラ砂防博物館館長	
今井 均	リーダーシップ富山 代表取締役社長	理事
上野 蛍	富山市議会議員	
大江洋一	㈱グッドラック 高岡オフィス代表	
小竹和博	㈱サンヨウ 代表取締役社長	理事
尾山謙二郎	マンパワーセキュリティ㈱ 代表取締役社長	理事
北山直人	㈲北山ナーセリー 代表取締役社長	理事
木本隆久	木本佛具店 代表取締役社長	理事
小池正俊	月刊グッドラックとやま読者代表	
佐藤則寿	富山市議会議員	
鋪田博紀	富山市議会議員・富山市議会副議長	
島 隆之	富山市議会議員	
渋井俊秀	佐藤工業㈱ 北陸支店管理部長	理事
杉本 正	富山県議会議員	
祖川裕美	アコースティックユニット P-chan 組	
高田重信	富山市議会議員	
髙塚 廣	富山県職業能力開発協会 企業相談員	
富増 孝	クラシモ神島㈱ 代表取締役社長	

名前	役職等	備考
中川忠昭	富山県議会議員	
中村青児	㈱グッドラック 専務	理事
中村珠太	富山観光遊覧船㈱ 専務	理事
長井幸司	㈱オレンジ・ヴォイス・ファクトリー 代表取締役社長	
成田光雄	富山市議会議員	
畑中仁志	㈱ハタナカアート 代表取締役社長	
花井千赴	㈱ユニテ 代表取締役社長	理事
平木柳太郎	富山県議会議員	
堀江かず代	富山市議会議員	
松浦正樹	㈲ワールドモータース 代表取締役社長	理事
松井和夫	富山観光遊覧船㈱ 船長	
松井 洋	㈱三進堂 代表取締役社長	理事
水上啓子	富山シティエフエム放送部 チーフパーソナリティ	
源 久夫	㈱ライフワークフーズ 代表取締役社長	理事
村上和久	富山市議会議員・富山市議会議長	
森田 幸	㈱トラヤ 代表取締役社長	
安川弘哲	㈱グロス 代表取締役社長	理事
吉田友裕	㈲大黒や 代表取締役社長	
長谷川 徹	富山県土木部河川課計画係長	オブザーバー
柵 伸治	富山市商工労働部 観光政策課主幹・観光政策課長代理	オブザーバー
清水 健	富山市建設部 公園緑地課長代理	オブザーバー
沖村 一	富山市上下水道局 下水道課長代理	オブザーバー

■写真資料 1.



▲花見シーズンには、リバー劇場で箏の演奏が行われている

■写真資料 2.

▲川を見ながらくつろげる、松川べりのカフェテラス

●グッドラックとやま2017　街づくりキャンペーン

サンアントニオ リバーウォーク成功の秘密

都市の真ん中に高品質な水と緑のオアシス空間を創出

私は、2005年7月に、アメリカ・テキサス州のサンアントニオ市を訪れ、リバーウォークを視察しました。まず、橋の上から見て、「これは松川と一緒だ」と思いました。堤防のない掘り込み河道タイプという点も同じですし、もともと周辺の地面から川にかけて斜面があり、そこに樹木が茂っている状態だったという点も松川と同じです。サンアントニオの場合、斜面を垂直にして、そこにリバーウォークを整備し、ハグマンの計画により、川辺にカフェやレストラン、お店を建てていったわけです。

リバーウォークは、5メートル程下がったところにあって、言ってみれば、地下1階にもうひとつの別の世界が広がっている感じです。道路レベルから建物に入ると、「川の街」から見て、そこは2階で、地下に降りたつもりが、そこは「川の街」の1階で、突然賑わいが見えてくるんです。サンアントニオ・リバーウォーク成功の秘密①は、この別世界を創り出したことです。現地で購入した本には、リニアーパラダイス(線状の楽園)と書かれていましたが、都市の真ん中に高品質な水と緑のオアシス空間を創出した情熱には驚かされますね。そして、適度の屈曲があって先が見通せないので、次々と変化のある景観が楽しめ、飽きさせないんです。

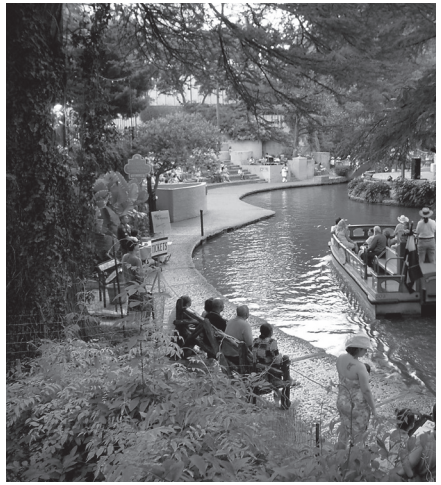
▲大木が生い茂り、自然公園のよう。

リバーウォーク沿いに商業施設を作るには、水位の一定化が欠かせないわけですが、サンアントニオでは、3重の洪水調節施設を設けていました。まず、ダムによる洪水調節、次に上流と下流に水門の設置、3番目に、道路の下に直径8メートル程のバイパストンネルを完成させたのです。これが成功の秘密②ですね。

そして、成功の秘密③は、樹木(自生のヌマスギ)の大木が、他に代えがたい存在感、雰囲気、緑陰効果をもたらしていることです。樹木がリバーウォークの環境の質の高さに大きく寄与しているのです。

成功の秘密④は、川のすぐ横に建てられているレストラン。市の職員に聞いたところ、建物は河川区域に入って建てられているものが多いそうです。それは、洪水の心配がなくなったことが背景にありますが、そのように川に近づくことがお店にとっても、お客にとっても、税金が入るメリットのある役所にとっても良い、という判断からきているとのことでした。

リバーウォークのお店での食事、音楽やイルミネーション、リバー劇場での音楽やダンス、遊覧船での舟遊び…。平安貴族が楽しんだ風流な世界と共通する高度な楽しみが、誰もが楽しめる形で現代の楽園として実現している―。造園技術者として、ただただ脱帽でしたね。GL



▲川幅に変化があって美しい。

“平安貴族が楽しんだ風流な世界と共通する高度な楽しみが、誰もが楽しめる形で現代の楽園として実現している―。造園技術者として、ただただ脱帽でしたね。”

●埴生 雅章

1948年(昭和23年)5月9日、小矢部市生まれ。東京大学農学部卒業。元富山県土木部長。元(公財)富山県民福祉公園副理事長。
現在、小矢部市にあるアートハウスおやべのアートプロデューサーを務める他、木曾義仲が戦勝祈願した埴生護国八幡宮の宮司でもある。
2005年7月にサンアントニオのリバーウォークを視察。
絵を描くのが好き。「一番寛ぐのは、真っ白な画用紙に向かって絵を描く時ですね」

●グッドラックとやま2016　街づくりキャンペーン

神通川から生まれた富山 〝松川は大切な宝物〟！

富山市庁舎は旧神通川に浮かぶ帆船をイメージ

市民の皆さんは、市庁舎が帆船の形をしていることをご存知でしたか？富山市の新庁舎の設計を依頼された時、この建物がかつての神通川の上に建つことを知り、インスピレーションがひらめき、帆船の姿にデザインしました。松川の遊覧船に乗って、桜橋からのぼってくると、松川に向かって船の舳先があって、その上に帆船のマスト（展望塔）が立っているデザインです。神通川を外堀に、富山城が築かれ、城下町として発展してきた富山市。まさに神通川の名残りを残す松川は、富山発祥の地と言えます。実は、富山の街の生い立ちは、パリと非常に似ているのです。セーヌ川によって生まれ、セーヌ川と共に育ってきたパリ。そのパリ市の紋章は、その川と船をかたどったもの。「たゆたえども、沈まず」と記された言葉には、パリ2000年が歩み続けてきた歴史があります。

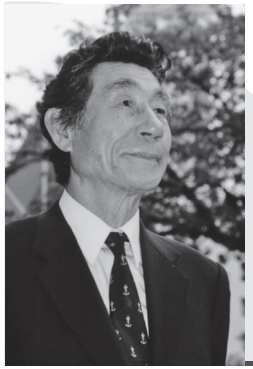
1975年、松川にコンクリートでフタをして駐車場にするという無謀な計画が発表された時、当時の改井市長は、「松川は富山のセーヌ川」と訴えて、このかけがえのない松川を救ったといわれます。パリ市がその紋章に川と船を刻んだように、富山市は、新庁舎のデザインに、帆船を刻んだのです。

設計にあたり、河畔に建つ市庁舎がないか、世界中調べたところ、スウェーデン・ストックホルム市庁舎に出合いました。メーラン湖畔に建っていて、100年以上の歴史を経て、市民に愛され、ホールではノーベル賞授与式後の晩餐会も行なわれ、スウェーデンのシンボルともなっています。富山市の庁舎は、松川河畔に建つ、世界的にも珍しい建物。神通川によって生まれたユニークな富山。市民がその〝水の都〟としての歴史にもっと誇りを持つべきです。

世界的といえば、全米ナンバーワンの人気都市、サンアントニオ市から、同じように美しい川が流れている縁で、1985年、富山市にシスター・シティの申込みがありましたね。富山市にとって、松川は大切な宝です。この宝を生かせるかどうかは、市民の熱意にかかっています。一層のご活躍を心からお祈り申し上げます。

ストックホルム市庁舎

パリ市の紋章
セーヌ川と船をかたどったもの。セーヌ川によって生まれ、セーヌ川とともに育ってきたパリの歴史を表している。



“松川の他に、都市の真ん中を、美しい川が流れている所を知りません”

●池田 武邦

1924年（大正13年）1月14日、静岡県生まれ（本籍は高知県）。
建築家、日本設計創立者。海軍士官として沖縄海上特攻作戦に参加、乗艦「矢矧」は撃沈されるが、漂流後、救助され、生還。1949年東京帝国大学第一工学部建築学科卒業。同年、山下寿郎設計事務所（現・山下設計）入社、日本初の超高層ビルである霞が関ビル（1968）などに携わる。1967年、日本設計事務所（現・日本設計）設立に参画、取締役に。京王プラザホテル（1971）、新宿三井ビル（1974）などの設計に統括責任者として携わる。1976年、日本設計代表取締役社長に就任。長崎オランダ村（1987）、ハウステンボス（1992）、富山市庁舎（1992）の設計を統括。現在、日本設計名誉会長。日本設計・池田研究室代表。

●グッドラックとやま2017　街づくりキャンペーン

松川の魅力アップで、環境と観光のシンボルに

川べりを魅力ある場所に作り替えることができる

富山発祥の地である神通川湾曲地帯を松川、いたち川が今もゆったりと流れ、富山の発展を静かに見守っている。

「街づくりとは、自分の住む街をしっかり見つめ、そこを魅力ある場所に作り替えること」、ときっぱり。川を生かした街づくりは、富山の歴史にかなった他都市にない魅力的な街の創造につながる。

「街の特色に見合った、人々を引きつけて離さない、新たな魅力づくりが不可欠」、と強調する。

本来川は、人間にとって最も身近に自然を感じられる場所であり、潤いと安らぎを与えてくれる所。ところが42年前、松川にコンクリートでフタをして、駐車場にするという無謀な計画があった。

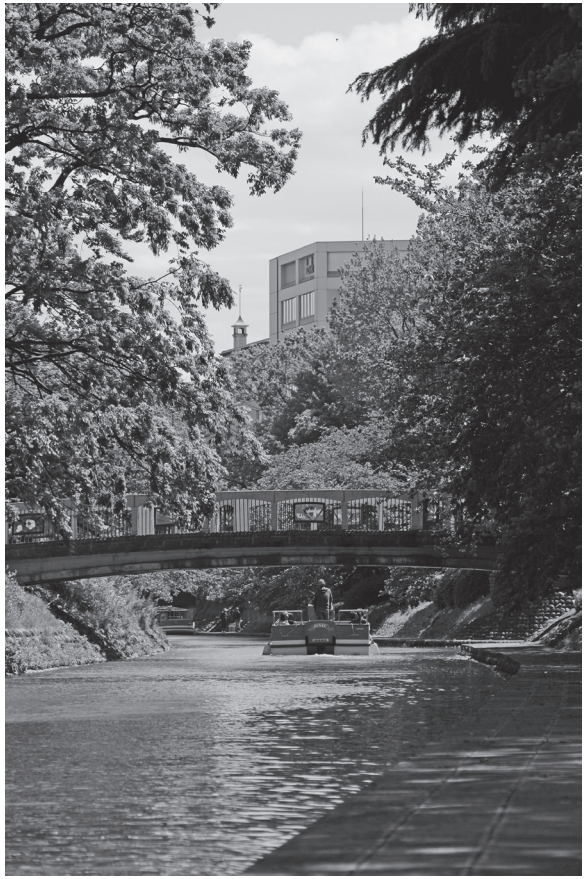
「恥ずかしいね。東京・日本橋の上に高速道路を架けた発想と同じで、街の歴史や、文化を踏みにじって、美しい景観を台無しにしてしまう。パリのセーヌ川にフタをしたら、パリでなくなってしまうでしょう」　松川は神通川によって生まれた富山の歴史を今に伝えると共に、街のシンボルとしての顔も合わせ持っているのだ。

静岡大学農学部を卒業、専門の水資源と、環境経済学を研究するうち、田園地帯を潤す川が、街中にあって、美しい自然環境を作り出すことを発見。

「日本の川は、治水工事によって、人工的な川となってしまいましたが、草花、高い木々、護岸のデザイン、散歩道などを工夫することによって、川べりを都市の雑踏から遠ざけてくれる、魅力ある場所に作り替えることができるのです」

21世紀は環境の世紀と言われる。政府もようやく観光立国に気付いた。人口減少社会に入り、街の活性化のためには、交流人口が増々重要になってくる。

「県都、富山のシンボルである松川を、魅力ある場所に作り替えることが、環境を生かした観光立県に繋がるはず」GL



▲可能性が眠る松川

▲魅力ある場所に作り替えたサンアントニオ

「県都富山のシンボルである松川を、魅力ある場所に作り替えることが、環境を生かした観光立県に繋がるはず。“水の都とやま”創造の成否は、私たちの意志力と想像力に懸かっている」

●西頭 徳三（さいとう・とくそう）

1938年（昭和13年）6月7日、南砺市（旧福光町）生まれ。静岡大学農学部、京都大学大学院農学研究科卒。農学博士（京都大学）。高岡短期大学長を経て、2005年（平成17年10月）、富山大学長に。現在、静岡市の常葉（とこは）大学長を務める。“水の都とやま”推進協議会 副会長に就任。

○尊敬する人…後藤新平　○好きな言葉…「お金を残す人は下、仕事を残す人は中、人を残す人は上である」